



2代目です。どうぞよろしくお願ひします。

代表者交代

2010年3月、私が36歳のとき、創業者の父親（現会長）から代表権を移し、トップ交代を致しました。先代が創業した1981年から約30年が経過し、世代交代の時期でもありました。

2006年版中小企業白書では、年間29万社の廃業のうち、後継者不在を第1理由としたものが7万社あり、後継者不足で事業を廃止するケースが社会問題として話題になった時期です。

当社では既に事前から事業承継の専門家と話し合い、着々とその準備は進めていました。そして2009年6月に、「中小企業経営承継円滑化法」で経済産業大臣から「確認」を受け、計画的な事業承継の取り組みが公的に認められた形となったのです。創業者の役員退任や猶予額相当の担保提供、現従業員の雇用維持などを要件に大臣認定が出され、自社株式の生前贈与にかかる納税額の8割が猶予される条件です。

経済産業大臣の「確認」を栃木県内第1号で受けたため、地元の新聞からも取材を受け、当社のトップ交代は事業承継の積極的取り組みとして高く評価され、取引先や外部関係者からも厚い信頼と好評を頂きました。

震災の被害

トップ交代からちょうど一年が経過した2011年3月11日に、東北地方太平洋沖地震が発生しました。当社工場がある宇都宮市白沢地区では、震度6強の揺れで工場建物の一部が崩落、建物本体および社用車3台も被害に遭いました。同じ工業団地内にある他社の外国人従業員は、自国では地震を経験したことがないらしく、当時、恐怖のあまり泣き叫びながら団地内道路を駆けまわっていました。

緊急事態に対し日頃から訓練していた当社従業員は、その時適切な行動をとることができ、幸いにも人的被害はありませんでした。しかし、本社工場建物が半壊してしまい、震災の被害から幸いにも逃れた製品倉庫を、仮の事務所兼作業場として利用することになったのです。

30年間使用した旧工場を取り壊し最新鋭の



東京支部
株式会社協立製作所
代表取締役 大谷津 敏之

配電盤新工場が完成する2011年9月まで、計画停電や国が勧める節電対策により、クーラーはもちろん冷蔵庫の使用も中止せざるを得なく、全社員で節電や熱中症対策のアイデアを出しながら震災後の暑い夏を乗り切りました。

震災から学ぶ

私たちは今回、震災の被害に遭ったことをバネに、より耐震強度を増した強固で利便性も追求した配電盤新工場を完成させました。また震災直後、真夏の節電活動を通し「うつのみや節電大作戦」にエントリーし、前年比で-71.7%の節電を達成。宇都宮市長より特別賞を頂きました。

弊社のほかに受賞した2社は一部上場企業の大手であり、中小企業の私たちが表彰されたのは小さな町工場の努力が認められた結果だと思っています。この受賞により地元テレビ局から節電対策の特集取材を受け、自作の節電モニターや現在の消費電力値を表示する自社製の電光掲示板なども紹介されました。

新工場が完成したことや、地震発生当初の混乱の影響も少し落ち着いたことに伴い、東北地方への幹線道路となる宇都宮市内の国道4号線沿いに、輸送車両の安全運転と東北被災地の一日も早い復興を願い、『安全運転 がんばろう日本!!』の復興大看板を設置しました(写真)。



国道4号線沿いに設置した復興大看板

さらに、地元商工会「うつのみや市商工会青年部」と協力し、宮城県石巻市方面などでのボランティア活動も毎年数回にわたり継続実施しており、微力ながら東北被災地の早い復興と被災に遭われた被災者の方々に対し、少しでもお役に立てればと願っています。